

アート彫刻板とは～アート彫刻板によるレリーフづくり～

アート彫刻板とは、薄い板(単板)を貼り合わせた材料(合板)で、貼り合わせる接着剤に赤色の顔料を入れてあるため、単板と赤い接着層とが複数の層をなしている彫刻用の素材です。7枚の板の貼り合わせになっていますので、彫り込んだ際に美しい模様生まれ、彫り込む深さや角度を変えることで、様々な模様を創出することができます。

大きさは15×10×0.7cmで、表側には厚さ1mmの単板を4枚、木目が縦横交互になるように貼り合わせてあります。

シナ合板を使っていますので、一般的な彫刻用の板同様、彫り込みに特別な力や技術を必要とするものではありません。

制作者のアイデアにより、作品に個性豊かな表情をつけることができます。



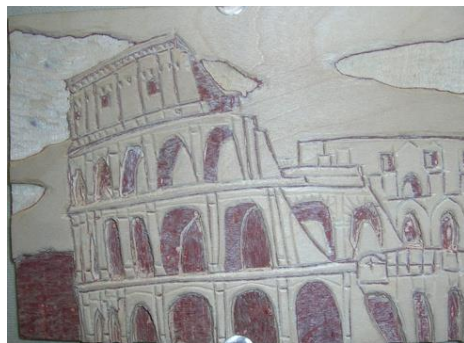
想像力豊かに、彫り込んで現れる模様を思い浮かべながら作り上げるレリーフは、彫りすすめるうちに「ここをもう少し彫って、変化をつけてみよう」といった、作業をすすめる中でさらにアイデアが膨らんでいくおもしろさもあります。

<過去の受賞作品>



作品名「紫陽花」

花の背景に赤色の部分を使い、小さい花一つ一つを描いています。素材の層を生かして重なり合う一枚一枚の葉を表現しています。葉の輪郭に沿って現れる赤い線が立体感を効果的に見せています。



作品名「屋間のコロッセオ」

赤色の部分を使い、建物の輪郭や影を描いています。白い建物と赤い影とのコントラストにより、建物の立体感や内部の奥行きが表現されています。



作品名「凜凜」

素材が層になっていることを利用し、中心部に向かって彫り込むことで、赤い線が同心円状に広がり奥行きのある模様となって現れています。周りの部分は赤色を背景に使い、白い木地の模様を浮き立たせています。